

13. 陶芸

松江の陶芸史は、江戸時代における御用窯の発展、明治期以降の民窯としての展開、そして昭和初期の民藝運動への参画とその継承、という大きな流れで捉えることができます。

江戸時代 江戸時代後期、松江では七代藩主・松平治郷（不昧公）の指導によって楽山焼と布志名焼が発展し、優れた茶陶器が作られました。両者はあわせて「出雲焼」と称され、陶工が行き来した兄弟窯でした。

楽山焼は、延宝5年（1677）に長門から来た陶工・倉崎権兵衛によって始まります。松江城の北東・西川津の藩主別荘が営まれた御立山（後に楽山）に窯が築かれたことから、古くは権兵衛焼、御立山焼、御山焼等と言われました。一時中断ののち、享和元年（1801）に長岡住右衛門貞政が登用されて再窯し、焼物御用を務めました。二代空斎から色絵を始め、伊羅保（砂混じりの土を使い、手触りがザラザラしている）や刷毛目茶碗、京焼風の色絵茶碗などに優品を残しています。

一方の布志名焼は、松江城の南西、宍道湖の南岸に位置し、土屋窯と永原窯が藩の御用窯として茶道具や花器などを作りました。土屋窯は安永9年（1780）に開窯し、初代善四郎芳方が布志名焼特有の黄釉を始めたとされます。黄釉は地元来待で採取される来待石を原料としており、温かみのある美しい黄色は、後に布志名焼の代名詞となりました。

二代政芳は不昧公から「雲善」の号を賜り、以降も焼物御用を務めました。永原窯は初代与蔵順睦が享和2年（1802）



古楽山焼 内刷毛目茶碗 倉崎権兵衛
松江歴史館蔵



布志名焼 色絵秋草図茶碗 永原雲永
島根県立美術館蔵

に開窯し、間もなく不昧公から御茶碗師を拝命して御用を務めました。二代与蔵建定は家老の三谷権太夫から「雲与」の号を、三代永助房則も三谷家から「雲永」の号を与えられました。

その後 明治期に入ると、御用窯は藩の庇護を失い、日用陶器や輸出陶器の生産に活路を見出していきます。楽山焼・布志名焼でも、花瓶や大皿などの日用品が生産されました。

内国勲業博覧会や万国博覧会などに積極的に出品して入賞したり、褒状を受ける窯元も登場し、国内外への販路拡大が図られました。

昭和初期には全国各地に民藝運動が広がりました。松江市域でも布志名焼舩木窯の舩木道忠、湯町窯の福岡定義（貴士）、袖師窯の尾野敏郎らが民藝運動に加わります。運動の中心人物であった柳宗悦、河井寛次郎、濱田庄司、バーナード・リーチらが来訪して指導にあたり、布志名一帯は出雲地方における民藝の重要な場所となったのです。

歴史（そもそも） 日本列島で窯焚きをして焼物が作られるのは、古墳時代中期（5世紀前後）の「須恵器（すえき）」までさかのぼります。朝鮮半島から渡来した技術者が製作をはじめ、やがて東北から九州まで広がりました。須恵器とは、釉薬をかけずに窖窯（あながま、全体がトンネル状の窯）の中に入れ高温で焼き

締める「炆器（せっき）」と呼ばれる種類の焼物で、のちの備前焼などにつながっていきます。松江周辺でも5世紀中頃の大庭町渋ヶ谷遺跡から窯跡が見つかっており、須恵



楽山焼 色絵花卉人物文瓢形瓶
島根県立美術館蔵



グリフォン図大皿 バーナード・リーチ
島根県立美術館蔵

器が作られ始めていたことは確実です。

6世紀末頃、須恵器の需要は爆発的に増え、全国でたくさんの窯が作られました。出雲地域では大井窯跡群で集中的に

窯が見つかっており、地元豪族の管理のもと集約的に生産が行われました。それは奈良時代（8世紀前半）まで続き、その間、地域色の強い須恵器が作られ続けました。須恵器は平安時代初め（9世紀末頃）には作られなくなりますが、備前焼などの焼き締め陶器は一部の地域で存続します。

一方、奈良時代には平城京周辺で中国の唐三彩を模した奈良三彩が作られ始め、釉薬をかける陶器の先駆けとなります。やがて9世紀頃から、緑色の釉薬をかけた緑釉や、灰を釉薬とする灰釉陶器が生まれ、出雲国府跡などでも出土しています。特に灰釉は東海的美濃を中心に大量生産されました。中世には「美濃焼」として、日本各地に出荷されました。

やがて戦国時代末期（16世紀末）、豊臣秀吉の朝鮮出兵に伴い、朝鮮半島から日本に連れ帰った陶工が肥前（現在の佐賀県）をはじめ九州各地で陶器の生産を開始します。こうした陶器は江戸時代初期には「唐津焼」として西日本を中心に大量に流通し、松江城下でも出土しています。さらに瀬戸美濃や信楽焼、京焼などが各地域で発展する中で、松江でも藩窯が開かれたのです。

（村角 紀子・丹羽野 裕）



唐津碗と皿（松江城下町遺跡出土）

【参考文献】

- ・『千変万化の出雲焼』展図録、松江歴史館、2017年刊
- ・『松江市史』通史編1 自然環境・原始・古代 2015年刊
- ・『日本やきもの集成8 山陰』平凡社、1981年刊